

九州産業技術センター

競輪補助事業から生まれる 日本のものづくりネットワーク

を後押し。さらにハードルが高いと言われる国のプロジェクトなどに応募し、より大きな支援を受けて事業化・製品化の実現までを目指します。

今月の訪問先は九州地域の中小企業振興事業を行う「一般財団法人九州産業技術センター」です。福岡県福岡市と佐賀県鳥栖市の2カ所に施設を持ちますが、今回は博多駅近くにある事業所をお訪ねし、お話を伺いました。

このコーナーではこれまでも全国にある

中小企業を支援する施設を紹介してきましたが、こちらの九州産業技術センターはまたひと味違う、特色あるスタンスで取り組んでいます。

まずは九州各地に配置しているコーディネーターからの情報や、業界動向調査などの結果から、事業化の見込みが高い戦略分野、対象企業候補を選定。候補となった企業に対して、必要な技術協力ができる大学などの研究機関をマッチングし、研究開発

初期の研究段階から最終的な実用化まで貫いたフォロアップ体制を作り、長いスパンで企業への支援を行うこと、また産学官連係など必要なところに必要な人材を結びつけるハブ的な役割を担っているのが、この九州産業技術センターの大きな特長と言えます。

この一連の産業技術振興事業に競輪からの補助が活用されているようで、「私たちの一番の核となる部分の仕事を競輪補助事業に支援していただいています」と前田専務理事。

この事業から黎明期の一助になったという「KUMADAIマグネシウム合金」は、熊本大学の河村能人教授によって開発された。これまでのマグネシウムにはない高強度・高耐熱性を有する次世代の金属として大

注目の素材なのだそう。今年の秋頃から共同研究先の熊本県内の企業が量産・供給に向けた工場を稼働させる予定で、早くも国内外のメーカーなどから問い合わせが相次いでいると言います。

二階堂技術振興部長は「日本のものづくりの一番大切なところにきちんとお金が入って、中小企業の技術が世の中に出るといっのは本当に素晴らしいことです」と話してくださいました。

今回同行していただいた藤田剣次選手も「人と人との結びつきから良いものが生まれるというのは、分野は違えど競輪界にも置き換えて考えられる。勉強になりますね」と頷いていました。

藤田選手のインタビューは33ページに掲載しています。



お話を伺った九州産業技術センターの前田昌三専務理事。



福岡市の博多駅近くにある九州産業技術センターの事務所を訪ね、お話を伺う。



二階堂正憲技術振興部長。



取材に同行していただいた福岡支部の藤田剣次支部長。



競輪補助事業の支援を受けて行っている事業から生まれた「KUMADAIマグネシウム合金」。写真左上がそのマグネシウム素材で、その素材から作られた名刺入れも見せていただいた。驚くほど軽い！